

FUJISAN MUSEUM

ふじさんミュージアム

ふじさんミュージアム(富士吉田市歴史民俗博物館)は、「富士山の魅力を余すことなく伝えられる博物館」をコンセプトに「見て、体験して、利用する」施設として、最新の映像技術を取り入れるなど展示内容を一新し、平成27年4月リニューアルオープンしました。

平成25年6月に富士山は世界文化遺産に登録されましたが、当館

では世界遺産富士山を知ることができる随一の博物館として多くの貴重な資料を展示しております。

「富士山について誰もが気軽に楽しく 学べる開かれた博物館」として、皆様 を「おもてなし」させていただきます。









御師町お休み処



施設に隣接して建てられている休憩施設です。 トイレ、売店、案内所機能のほかに、最盛期の御師の町並みを再現したジオラマが設置されています。お立ち寄りの際にはご利用ください。



ふじさんミュージアム 御師 旧外川家住宅

THE ANNEX OF FUJISAN MUSEUM
THE TOGAWA OSHI HOUSE, A PILGRIM'S INN

〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田3丁目14-8 囮0555-22-1101

開館時間■午前9:30~午後5:00 (午後4:30 迄入館可)

休 館 日■火曜日(祝日を除く)

祝日の翌日(日曜・祝日を除く)、年末年始

観 覧 料■御師 旧外川家住宅

大人 100 円 (団体 80 円) 小中高生 50 円 (団体 40 円) ふじさんミュージアム・富士山レーダードーム館との共通入館券 大人 800 円 (団体 600 円) 小中高生 450 円 (団体 350 円)

◎20名以上は団体割引となります。

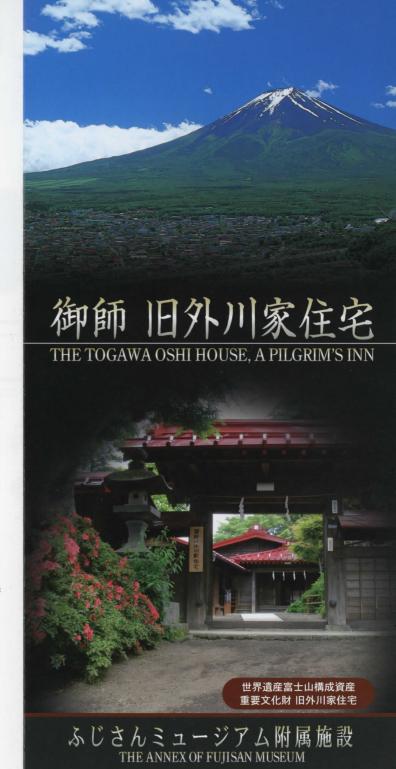
交通案内■中央自動車道河口湖ICより車で5分 東富士五湖道路山中湖ICより車で15分 富士急行線富士山駅より徒歩7分



FUJISAN MUSEUM

ふじさんミュージアム

〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田2288-1 囮0555-24-2411 囮0555-24-4665 [URL] http://www.fy-museum.jp



神仏の住まう山一 富士山の歴史と信仰

富士山は、その山容の美しさから日本一 の山、名山とたたえられてきました。しかし 一方では、古来より噴火の猛威をふるう火 山として人々に畏敬の念をもって崇められ、 山頂には神仏が住む霊山として、山岳信仰 の対象とされてきました。そのため、繰り返 す噴火を鎮めるために浅間大神を祀ったの が浅間信仰の始まりとされています。

富士信仰の当初の形態は、麓から山体を 仰ぐ、遙拝信仰でありました。平安時代以降 は、仏教の影響により修行のため山内に分 け入る修験者が増え、遙拝する山から修行 の山へと変化していきました。中世になると 修行者以外にも富士山を信仰して登山をす る一般の人々(道者)が増えています。『勝山記』 (妙法寺記)明応9年(1500)の条に「富士へ道 者参ること限りなし・・・」と富士登山の盛況 ぶりが記されています。こうして富士山は、 時代とともに修験者による修行の山から信 仰による一般の参詣登山というかたちに移 行していきました。

富士山の信仰が一般的に受け入れられた のは、室町時代末期に長谷川(藤原)角行が、 富士信仰を独自の教えをもって説いたから とされます。その後の弟子たちによって受 け継がれ、六世の食行身禄や村上光清らの 行者の活躍により、江戸時代後半、富士講と して隆盛を極めました。



御師宿坊「旧外川家住宅」

外川家は、奥行き八十間ほどの長大な短冊形地割の屋敷地に建てら れ、主屋と裏座敷の2棟から構成されています。御師住宅の特徴ともいえ る奥行きのある細長い形状の屋敷です。

中門をくぐると、「ヤーナ川(間の川)」と呼ばれている川(水路)が流れ ています。ここには、小さな滝が造られ、宿泊する富士講が、到着や出発 の際に水垢離を行う禊場となっていました。裏座敷後ろの敷地は、竹薮・ 屋敷林が広がり、屋敷神(稲荷社)や屋敷墓があります。

■富十御師

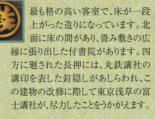
富士山に登拝する人々を富士道者といいます。関東からの道者は甲州 街道を辿り、大月宿から富士山北面の吉田口へと到着します。そして御師坊で 宿泊し、翌日に浅間神社へ参拝し山内へ踏み出しました。

吉田の御師は、富士山そのものを神体として信仰するため「富士御師」などと も呼ばれ、特定の社寺ではなく富士山へ信仰登山する人々(道者)に自らの住宅 を宿坊として提供し、登山の世話をおこなっていました。このように「御師」とは、単 に参詣者の案内や宿泊などの世話をするだけではなく、祈祷によって寺院や神 社に参詣する人々と神仏の仲立ちをする宗教者でした。



主屋は、18世紀後半の明和5年(1768) る御師住宅の多くは、19世紀以降の建築と推測され この時期まで遡るものは少なく、きわめて貴 重な建造物といえます。

形式は切妻造・板葺(現・鉄板葺)で、規模は梁間四間 半×桁行六間と主屋よりも大きい造りとなってい ます。この裏座敷は、主屋建立後の約90年後の万延 元年(1860)頃に増築されて、改築や修理を繰り返 して現在に至っています。





■御師の職分

上段の間/釘隠し

下段の間と上段の間

富士山を信仰する人々にとって、病気の苦しみから救ってく れるのは富士の神霊であり、その仲立ちをする御師の祈祷によって 功徳があらわれると信じられていました。そのため御師は、檀家の希 望やその時々の状況に応じて、祈祷、祓い、占いなどをおこない、富 十山宝印・富士山牛玉といったお札を摺って檀家に配っていました。